

あたたかく迎え入れられて  
地域の一員になれました。



さつま町

2017年に広島県よりターン

## 川西 大輔さん

1979年生まれ。広島県出身。地域おこし協力隊として家族で移住しました。任期終了後に起業し、現在は「さんぼんがわ Works」の代表。デザイン・Web制作・動画作成・イベント企画などを手掛けています。「きららの楽校」事務局長も兼任。

### 繁華街での飲食店経営から、暮らしが一変

こちらへ来る前は広島市で飲食店を経営していました。私は「40歳くらいから田舎で暮らそう」とずっと思っていて、子供が生まれたことも後押しになって移住を決意しました。そして、移住先を探す中で地域おこし協力隊の制度を知り、こちらに応募することにしたのです。

移住するなら南のほうがいいと思い、鹿児島県が候補地に。下見でさつま町を訪れると、自然環境の良さや出会う人のあたたかさに魅了されました。それから、子供が横断歩道を渡ったあとにペコリとお辞儀をします。その様子を見たとき「ここならいい子に育つぞ」と直感しました。

移住して3年が経過し、こちらに来て良かったと思っています。子供ものびのびと元気に育っています。



### 地域みなさんと協力して、町を盛り上げます！

地域おこし協力隊としては、さつま町の魅力の掘り起こしや発信とともに、人の交流が生まれる仕掛けづくりにも力を入れました。これまでにお手伝いしたプロジェクトのうちいくつかは、今でも自身の事業と並行して関わらせてもらっています。「きららの楽校」もそのひとつです。

これは閉校した小学校を活用した施設で、コミュニティースペースやカフェがあり、宿泊施設もあります。運動場ではキャンプもできますし、学びや体験などのプログラムも用意しています。ここにはまだまだ可能性があります。新型コロナウイルスの騒ぎが落ち着いてからになります、イベントもどんどんやっていきたいです。

デザインや動画制作も好きだったので、地域おこし協力隊ではこちら方面を担当することも多かったですね。それがそのまま、任期終了後の起業にもつながっています。

### 地域のためにできることを、これからも精一杯に

起業したての2020年末の2ヶ月間は、無料で仕事を請けました。地域の皆さんへの恩返しです。ポスターや結婚式の動画などの注文をいただきました。飲食店のテイクアウトメニューのデザインも引き受け、少しでもお役に立てられたかなと思っています。

いろいろな活動を通して、さつま町に詳しくなりました。そして、知れば知るほど、この町がどんどん好きになっていきます。さつま町がよりワクワクする場所になるように、もっともっと盛り上げていけるように、これからも自分ができることを精一杯やっていきます。